

全国協議会 ニュース

2026年9月1日発行 第409号

発行所：特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田 1-3-4KT ビル 3 階
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365
発行責任者：梅田正造 題字：仲田順和
https://www.marrow.or.jp E-Mail:office@marrow.or.jp

がん患者・家族のための 「がん患者フォーラム 2026」開催

8月8日(土)・9日(日)の2日間、認定NPO法人がんサネットジャパン主催、東京都文京区との共催により文京シビックセンターで「がん患者フォーラム 2026」が開催され、予想を超える約2,360人が来場しました。



神奈川の会参加メンバー

右端：筆者・小石川知子

会場では「骨髄腫治療の最前線」「リンパ腫治療の最前線」をはじめとする血液がんの専門講演や交流会が多数行われ、切実な思いで参加した患者や家族が最新治療や療養生活を学び、体験を共有する貴重な機会となりました。

ブース展示では「神奈川骨髄移植を考える会」「骨髄バンクを支援する東

京の会」「埼玉骨髄バンク推進連絡会」が出展。立ち寄ってくださった方へドナー登録の説明を行ったほか、関係者が再会を喜ぶ姿も見られました。

ステージプログラムではサバイバーによるファッションショーなども行われ、笑顔と手拍子で大きな盛り上がりを見せました。がん医療の「知る・学ぶ・集う」大切さと命のつながりを実感する充実の2日間となりました。

(全国協議会事務局 古山陽子)

がん患者フォーラム 2026 「がん患者の歯のケア交流会」を主催

今年は、国立がん研究センター築地キャンパス 研究棟から文京シビックセンターに移しての開催でした。フロアが地

下2階から3階までに分散され来場者も迷われたり、何より今までのように講座が終わり「たまたま通りすがってのご縁」というものがなくなってしまいましたが、暑い夏に炎天下を歩かずに地下鉄改札から直接来場できるというメリットもありました。ブースの出展は3団体が横並びで3つ並んだテーブルはインパクトが強く、会員の交流を図るチャンスにもなり、近県がタッグを組めばより大きな力になるとの感想をいただきました。

9日の「がん患者の歯のケア交流会」を神奈川と東京の共催で行いました。がん治療に翻弄され、疎かになりがちな口腔ケアについて、参加者の生の声を聞くことができ、質の高いがん治療が受けられる現在において、口腔ケアは格差が大きいことがわかりました。

参加者のお声は、10月10日(土)神奈川の会主催患者サロン「癌は治ったけれど歯はボロボロ」講師の虎の門病院 歯科医長、吉村美枝子先生にお届けします。

(神奈川骨髄移植を考える会 小石川知子)

都道府県骨髄バンク担当者会議

8月4日(火)、日本骨髄バンク主催の都道府県骨髄バンク担当者会議がWeb開催されました。岡本真一郎理事長および厚生労働省移植医療対策推進室 新谷幸子室長の挨拶に続き、同室の高波直樹係長の講演では、造血幹細胞移植の意義、自治体に対しては、法に定められた責務としてのドナー登録会や普及啓発への協力要請をされました。若年層を増やすことが急務であることに「新規登録者数は減少しているが2025年度は30歳代以下の登録者数が74.2%であった」との報告がありました。この件についてはその後の日本骨髄バンク担当者の方々から

も、ドナー登録に携わる方々の活動成果と紹介されました。また、さらなる若年登録者のドナープール拡大のため、教育機関での効果的な登録会推進も挙げられていました。

ドナー応諾に関わる課題として厚生労働省および日本骨髄バンクから「ドナー休暇制度」の導入促進の重要性が指摘されていました。本件については当協議会からも超党派国会議員連盟にも協力を求めているところであり、厚生労働省からも予算措置がなされますので、さらなる実効性ある働き掛けを各方面に期待をしたいところです。

(全国協議会理事 鈴木敏生)

骨髄バンクとさい帯血バンクの最新情報

● THE BANK NOW (速報値) ●

骨髄バンク

■ 日本骨髄バンクの現状(2026年7月末現在)

	6月	7月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,216	4,168	565,716	1,036,909
患者登録者数	212	207	1,769	74,205
採取数	骨髄	41	40	—
	末梢血幹細胞	57	52	—
	合計	98	92	—

2023年4月から統計基準が移植件数から採取件数に変更

■ 7月の区別ドナー登録者数

献血ルーム／476人、献血併行型集団登録会／1,665人、集団登録会／0人、その他／20人、スワップ登録／2,007人(トライアル3登録分)

■ 7月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

10代 4,999人／20代 102,045人／30代 137,914人
40代 204,259人／50代 116,489人

■ 7月の20歳未満の登録者419人

注)数値は速報値のため訂正する場合があります。

(MONTHLY JMDF(8月14日発行)より抜粋)

さい帯血バンク

■ さい帯血保存公開本数 10,921本

(2026年7月末現在、国内6バンクの合計)

■ 7月の移植件数 165件 (累計27,299件)

(日本赤十字社 骨髄バンク・さい帯血バンク ポータルサイトより抜粋)

臍帯血移植でつないだ命とともに、再びコートへ



2022年3月、働きながら実業団バドミントンチームの主将として活動する中、急性骨髄性白血病（FLT3 遺伝子変異）の宣告を受けました。妻のお腹には第2子があり、絶対に生き抜くという強い意志を持ったものの、骨髄バンクで適合ドナーが見つからず不安に直面しました。しかし同年7月7日、赤ちゃんのへその緒に含まれる造血幹細胞を用いた臍帯血移植を受け、命を繋ぐことができました。

移植のわずか4日後、第2子が誕生

しました。無菌室で私が新しい命をいただいた直後に、妻が新しい命を産んでくれました。家族を迎えた喜びの一方、身体へのダメージは大きく、一度は引退も考えました。しかし、SNSで「世界移植者スポーツ大会」を知り、もう一度コートに立ちたいと復帰を決めました。治療の副作用である変形性膝関節症や重度の腰痛といった課題を抱えながらも、この目標がリハビリを乗り越える原動力になりました。

退院後は自身の身体状態を冷静に把握し、徹底したリスク管理のもと練習を重ね、「全日本実業団選手権」へ復帰。国内の「全国移植者スポーツ大会」では2連覇を達成しました。さらに2025年、さまざまな競技が実施される「世界移植者スポーツ大会」に初挑戦し、バドミントンの男子シングルスで金メダル、混合ダブルスで銀メダル

を獲得しました。持ち帰ったメダルを首にかけ、喜ぶ子どもたちや家族の笑顔を見た時、復帰して本当に良かったと感じました。現在は2027年ベルギー大会での連覇を目標に、トレーニングを継続しています。

今年は10月24日（土）～25日（日）に、国内の「全国移植者スポーツ大会」が開催されます（詳細は下の二次コードを参照ください）。臓器や骨髄移植の経験者が全国から集い、ともに競技を楽しむ貴重な場です。病気を乗り越え、スポーツを通じて喜びを分かち合える移植者の仲間が少しでも増えれば嬉しく思います。

今後も、繋いでいただいた命を輝かせ、全力でシャトルを追う姿を通して、闘病中の方々にエールを届けていきたいと考えています。（村崎 誠）



第32回
全国移植者スポーツ大会
大阪大会

動画コンテスト最優秀作決定

プルデンシャル生命保険株式会社が募集（2025年12月1日から2026年2月28日）した、骨髄ドナー登録促進を目的とした動画コンテスト「プルデンシャル・ビデオ・クリエイション・アワード～あなたが骨髄ドナーPR担当！～」のディスカバリー部門（アカペラの方が対象）で岡崎亜加音さ

んの作品「贈りもの」が最優秀賞を受賞しました。

「骨髄提供とは無償の愛、誰かにとっての素敵な贈りもの」と考え、動画のテーマとしたそうです。

「贈りもの」は全国協議会のホームページでもご覧いただけます。



東京雪祭SNOWBANK PAY IT FORWARD2026が開催されます

一般社団法人 SNOWBANK は、「若者に献血・骨髄バンクを知って、行動してもらおうキッカケの場を作ること」として、今年もスノーボードを軸に音楽・アート・食・をテーマにした子どもから大人まで楽しめる「東京雪祭」を東京・代々木公園イベント広場にて開催します。

—雪とエンターテインメント、そして「命をつなぐ社会貢献」が融合する2Days—

一人でも多くの患者さんが治療のスタートラインに立てる社会づくり。例年より1週間早い開催となりますのでお間違いなく。東京雪祭に是非ご参加

を！ 献血は日本赤十字社のアプリ「ラブラッド」から予約できます。

SNOWBANK の活動を応援くださる「雪主寄付」を通年募集中です。

1口1,500円からご支援いただければ、オリジナルグッズのリターンも用意されています。

■開催日：2026年10月31日（土）～11月1日（日）

■会場：代々木公園 B 地区イベント広場

■時間：9:30～16:00

■料金：無料

■目標数：献血 400 人／ドナー登録 100 人

雪主寄付募集サイトへ GO !



基金給付を受けた方からのメッセージ

志村大輔基金（分子標的薬支援）

病状が改善される良い薬があると知っても高額だと使うのをためらってしまいます。私も体は楽になりたいと思っても経済的なことを考え、一時的な服用ではないので数カ月悩み主治医にも相談しました。

使えなかったらいくら良い薬でも良い薬とは言えないと思いました。

そんな時に志村大輔基金があることを看護師さんから案内されました。自分を支えてくれているような気持ちになりました。病気を前向きに考えられるようになりました。ありがとうございました。

（東北地方の患者さん）

新規加盟団体 一般社団法人ART LINKのご紹介



このたび、一般社団法人ART LINKは、全国協議会に加盟させていただきました。全国各地で長年にわたり骨髄バンクの普及啓発や患者支援に尽力されている皆様とともに活動できますことを、大変ありがたく、心強く感じております。

ART LINKは、「芸術を通して、人と人、命と未来をつなぐ」ことを目指し、2025年7月に設立いたしました。バレエや音楽をはじめとする芸術活動を通して、骨髄バンク・献血の普及啓発、小児がん患者支援などに取り組んでいます。

代表理事の三木まりあは、中学2年生の時に白血病を発症し、骨髄バンクを通じて骨髄移植を受け、寛解に至りました。長い治療期間を経て再び舞台に立つことができ、現在はダンサー・指導者として活動するとともに、看護師の資格を取得し、自身の経験を伝えながら骨髄バンクの普及啓発活動にも携わっています。

骨髄移植を必要とする患者さんにとって、ドナーとの出会いは治療へつながる大切な希望です。しかし、骨髄バンクについて「知る」機会は、まだ

十分とはいえません。私たちは、これまで骨髄バンクに接点のなかった方にも、芸術を入口として自然にその存

在や意義を知っていただける機会をつくりたいと考えています。

舞台を観て心が動いたその先に、「骨髄バンクとは何だろう」「自分にもできることがあるだろうか」と考えるきっかけが生まれる。その小さなきっかけが、人から人へとつながり、いつか誰かの治療への希望につながっていくことを願っています。

ART LINKという名前には、アートを通してさまざまな立場の人がつながり、それぞれの力を持ち寄ること、社会へ新しいつながりを広げたいという思いを込めています。

このたびの加盟を機に、全国の皆様から学ばせていただきながら、私たちだからこその普及啓発の形を一つひとつ育ててまいります。

「Coppélia—命の贈り物 Gift of Life—」開催

8月2日（日）、広島県廿日市市のウッドワンさくらびあ大ホールにて、Mathys Ballet 2nd Concert「Coppélia—命の贈り物 Gift of Life—」骨髄バンク啓発チャリティーコンサートを開

催いたしました。

本公演は、バレエを中心に音楽やジャズダンス、マジックなど異なる芸術分野が一つの舞台に集い、芸術を楽しんでいただくと同時に、骨髄バンクや命について知り、考えていただく機会をつくることを目的として開催しました。

全幕バレエ「コッペリア」を上演し、プロのダンサーや音楽家とともに、地域で学ぶ子どもたちも出演しました。また、会場では骨髄バンクについて知っていただくための映像や情報をお届けし、芸術の感動と普及啓発を一つの空間の中でつなぐことを大切にしました。

また、終演後には、「骨髄バンクについて初めて知りました」「ドナー登録を考えたいと思います」といった声のほか、現在治療を受けている方からもメッセージをいただきました。舞台をきっかけに、これまで骨髄バンクとの接点なかった方々にも関心を持っていただけたことを、大変うれしく感じています。

この公演は、協賛企業・団体、医療関係者、行政、学校、ボランティアスタッフの皆様等、本当に多くの皆様のお力によって実現しました。

一人の力だけでは届かないことも、それぞれの力がつながることで、より多くの方へ届けることができます。今回生まれたつながりを大切に、ART LINKはこれからも芸術を通して骨髄バンクを知っていただくきっかけをつくり、支援の輪を広げてまいります。

（一般社団法人ART LINK
代表理事 三木まりあ）

第10回WBMTワークショップおよびシンポジウム参加報告

WBMTワークショップ・シンポジウムに参加する米国の医師にデルタ航空のチャリティマイルによる航空券を提供しました。レポート（翻訳）を紹介します。

WBMT（Worldwide Network for Blood and Marrow Transplantation：世界血液・骨髄移植ネットワーク）は、造血細胞移植（HCT）の質の向上を推進し、幹細胞提供や細胞療法におけるベストプラクティスを確立するとともに、世界各地への技術普及を図ることを目的とした、教育・学術を担う国際的な組織です。6月25日から27日にかけて、パナマのパナマシティにて

第10回WBMTワークショップおよびシンポジウムが開催されました。本会には、専門知識を共有しようとする世界各地の専門家や、自地域における移植医療の発展と安全性の向上に役立つ新たな手法やツールを学ぼうとする熱心な参加者が一堂に会しました。

シンポジウムおよびワークショップでは、WBMTの指導部、PAHO/WHO（汎米保健機構／世界保健機



関）、およびパナマの保健当局者による歓迎の挨拶が行われました。続いて、移植医療の活動が発展途上にある国、すでに確立されている国、あるいは計画段階にある国々から13件の簡潔なプレゼンテーションが行われ、各国の経験から何を学び取れるかについて詳細な議論が交わされました。

（Daniel Weisdorf 医師）

各地のたより

各地のたよりを
写真を添えて
お寄せください。

千葉

ライオンズクラブ 献血推進研究会での講演



8月26日(水)、第35回ライオンズクラブ国際協会333-C地区献血推進研究会にお招きいただき、「骨髄提供を経験して」と題して私の提供体験をお話する機会

を得ました。当日は100人弱の皆様が集まり、真剣な眼差しで耳を傾けてくださったことに深く感謝申し上げます。

私自身は、39歳でドナー登録をし、登録から12年目の51歳のときに初めて適合通知を受け取り、骨髄提供を行いました。振り返ると、コロナ禍での通院・入院、仕事の調整、家族にかけた負担など、さまざまな苦勞もありましたが、誰かの命を救う力になったという実感は得難い経験であり、自分自身の成長や自己肯定感の向上につながりました。また、入院中に得た「ひとり時間」は、自分の生き方や家族、社会との関わりを見つめ直す、人生の大きな転機となりました。

退院後は自身の経験を活かし、勤務先へ「ドナー休暇制度」を導入いたしました。社

会貢献を応援する姿勢を示すことで、社員のエンゲージメントや企業イメージの向上にもつながっています。

ライオンズクラブの皆様にも、ドナー休暇制度の導入検討をお願いするとともに、日頃の献血推進活動に併せて「骨髄バンクの登録」もぜひ呼びかけてほしいと熱意を込めてお伝えし、講話を結びました。

(千葉骨髄バンク推進連絡会 副会長 中村 剛)

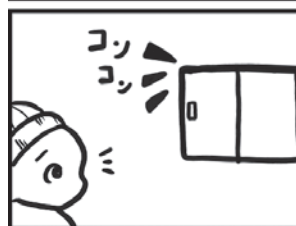


8月26日(水)、中村剛副会長と私は千葉県赤十字会館で開催されたライオンズクラブ国際協力333-C地区の献血推進研究会に招かれ、私は「骨髄バンクと登録について」講演しました。同研究会では過去に2017年9月(ホテルスプリングス幕張)、2020年1月(千葉県経営者会館)、2023年9月(ホテルスプリングス幕張)、2025年8月(千葉県赤十字会館)でも講演をしていますが、この時は私一人での講演でした。

私は図、グラフ、写真の資料で「骨髄バンクの現状」「登録手続き」「千葉県での登録会」「課題」「ドナー休暇制度」「お願い」について説明しましたが、皆さん熱心に聴いてくださいました。

(同 会長 梅田正造)

移植前日の出来事



「30歳で白血病となり2度の移植を経験。現在は自分らしく生きることが目標にお絵かきクリエイターとして活動中。」

賛助会員の皆さま紹介(敬称略)

【一般賛助会員】月野雄仁=大分

滋賀

患者会：ひだまりの時間



白血病発症時から孤独を感じていた私は、患者会との出会いに救われました。

その経験から、孤独や不安を抱える患者さんやご家族が交流できる場として、患者サロン『ひだまりの時間』を立ち上げました。第一回は10月18日(日)に開催予定です。

話してもいいし、聞くだけでもいい。

い。お茶を飲みながらゆったり過ごし、「ここではひとりじゃない」と感じていただける、あたたかな場所を目指します。一人でも多くの方に、この思いが届くことを願っています。

(滋賀骨髄献血の和を広げる会 青木ルミ子)



心からのご寄付に感謝申し上げます

当協議会への寄付金は税制上の優遇措置を受けられます。

●7月21日～8月20日(敬称略)

●一般

岐阜献血希望者を募る会

現金	3,600円
櫻井 成行	現金 10,000円
福原 卓也	現金 3,000円
匿名	現金 1,000円
●佐藤きち子造血細胞移植患者支援基金	
匿名	現金 5,000円

●募金箱

株式会社	クスリのアオキ
現金	1,499,426円
株式会社	マルト商事
現金	32,780円
株式会社	久美堂
現金	30,079円
株式会社	コスモトレードアンド
サービス千葉営業所	

現金	5,123円
全国協議会事務所	現金 10,000円
●つなげる募金	現金 5,200円
●キモチと。	現金 8,252円
●マンスリーサポート	現金 88,000円

活動資金の支援をお願いします

銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店
普通 5666655

郵便振替口座 00150-4-15754

口座名：特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会

郵便振替口座の振込用紙を郵送いたします。当協議会までご請求ください。